

防災グッズ

	品名	数量	備考
A袋	キズ絆創膏	1箱(14枚入)	
	ミニカイロ	8個	
	マスク	2袋(7枚入) 2袋(10枚入)	
	包帯	1本	
	アイマスク	1枚	
	耳栓	1組	
	コットン球	1袋	耳栓などに
	歯磨きセット	2セット	
B袋	カッター	1本	
	ライター	2個	
	はさみ	1本	
	メモ帳	2冊	
	ボールペン	2本	
C袋	災害備蓄用ライト	4本	
	ヘッドライト	4個	予備(2個)
	懐中電灯	1本	
	乾電池	単3~8本、単4~10本	
D袋	ビニール手袋	Lサイズ1組	
	手袋各種	2組	
	ニット帽	男女用各1枚	頭部保温及び保護用
	ウェットティッシュ	1袋	
E袋	ビスケット	2袋	
	チョコレート	3個	
	生梅飴	1袋	塩分補給用(夏など)
防災袋		5枚	ゴミ袋兼用
黒ポリ袋(大)		3枚	着替え、トイレスペースなど利用可
給水バック		3リットル用1袋、3.9リットル用2袋	
非常用袋		2袋	
保温アルミシート		5枚	
レインコート		L・Mサイズ 各1枚	
タオル		2枚	
ミニトイレ		1回分	
エマージェンシー		1セット	ロープ、軍手など
コップ		2個	
アルミシート		2枚	
反射安全タスキ		1本	

水などは別途に用意すること

2019年12月現在、関東方面で頻発する地震は大きな地震の前触れと云われている。「備えあれば憂い無し」この防災バックには、東日本大震災の経験から必要と思われるものを詰め込んでいる。「邪魔だな」などと云わず、常に玄関の近くに置き、もしもの時に直ぐに背負って避難すること。

また、避難場所の下見やそこに行くまでのルートは前もって確認しておくべし。川の近くは絶対に避けること。東日本大震災の折、陸前高田市から住田町にかけて、気仙川を津波が10km以上遡上し、周辺を襲った。地震の規模や場所によっては20km上流でも危険と思うべし。決して自然の猛威、脅威を侮るなかれ。

最初に

- ・バックの中身を確認しておくこと。裏面に明細が載っている。
- ・ヘッドライトを多めにいれておいた。ヘッドライトは両手が使えるので非常に便利。スマホのライトを使ってしまうと、直ぐに充電が切れる可能性がある。
- ・水は重要なので、最低でもペットボトル2本ぐらいはバックに入れておくこと。人間は約20日間何も食べなくとも死ぬことはないそうだが、水分補給がストップすると、脱水症状により意識が朦朧となり、死んでしまう可能性がある。
- ・ニット帽は頭部の保温のみならず、頭部の保護にもなる。中にタオルでも入れると更に保護の強度が増す。(バックのサブポケットに入っている)
- ・ビニール袋(透明なゴミ袋)も直ぐに取り出せるようにしておくが良い。火災発生の際、煙から呼吸を守るため、空気を出来るだけ入れて頭からかぶる。但し、二酸化炭素が充填するのでそれ程長くはもたない。
- ・食料(ビスケットやチョコレート)は、出来るだけ手を付けずにおき、避難所からの補給がなくなった時に開封した方が良い。夏場は、塩分補給のため、水と一緒に梅飴を舐めると良い。

※くれぐれも、自然の力を甘くみてはだめだ。もしもの時は決して焦らず、とにかく冷静になることを肝に銘ずべき。

この防災グッズが使われずにいることを願う。

父より